

建築・社会システムに関する連続シンポジウム <第14回>
伝統構法木造建築物における諸問題と今後の展望

我が国の全国各地で継承されてきた伝統構法木造建築物は、その良さが改めて見直されてきているが、現行法規の下では、確認申請や建築確認審査など厳しい状況に置かれている。建築基準法などの法的な課題や設計法などの技術的な課題について検討する。先ず法的な課題として、長期優良住宅制度や改正省エネルギー法などに対する伝統構法の課題、歴史・文化財建造物の保護・耐震改修における課題を挙げる。次に伝統構法の歴史的な構法と構造設計法の課題を挙げる。これらの課題を解決する取り組みの一つとして、伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会では、昨年度より、実大振動台実験などを通して石場建てを含む伝統構法の設計法について検討を行い、実務者が実践的に使える設計法の構築を進めている。現行の限界耐力計算による運用マニュアルや伝統的構法のための新しい設計法の考え方について解説する。さらにパネルディスカッションでは、今後の伝統構法に対する取り組みと展望について議論する。

<主催> 都市・建築にかかわる社会システムの戦略検討特別調査委員会

<共催> 「伝統的構法の設計法作成および性能検証実験」検討委員会

日 時：2011年12月21日(水)13:00～17:00

場 所：建築会館ホール

プログラム

主旨説明

鈴木祥之（立命館大学・教授）

I. 伝統構法木造建築の課題

伝統構法木造建築の法的な課題について

古川 保（すまい塾古川設計室）

歴史・文化財における伝統構法木造建築物について

後藤 治（工学院大学・教授）

伝統構法木造建築物の歴史と構法について

麓 和善（名古屋工業大学・教授）

伝統的構法の設計法作成および性能検証実験の取り組みについて

鈴木祥之（前掲）

伝統構法木造建築の現行の設計法の運用について

奥田辰雄（木四郎設計室）

伝統構法木造建築のこれからの設計法の考え方について

斎藤幸雄（斎藤建築構造研究室）

II. パネルディスカッション「今後の取り組みと展望」

参加費(資料代) 会員:1,500円 会員外:2,000円 学生:1,000円

定 員 150名

申込方法 FAX または e-mail にて催物名称・会員番号・氏名・勤務先・電話番号・e-mail アドレスを明記の上お申込下さい。定員に達した場合は、お断りする方のみご連絡します。

申込み・問合せ 日本建築学会事務局教育・普及事業グループ 酒井

e-mail:sakai@aij.or.jp TEL03-3456-2051 FAX 03-3456-2058